

令和 2 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人さいたま市文化振興事業団	
施 設 名	さいたま市文化センター	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	12,018	(千円)
公演事業	5,659	(千円)
人材養成事業	2,967	(千円)
普及啓発事業	3,392	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東京フィル&宮川彬良 の「ブラボー!名曲ア カデミー」	令和3年3月13日※	東京フィルハーモニー交響楽団、 宮川彬良、JKim、中村繪里子	目標値	1,326
		大ホール		実績値	423※
2	東京フィルハーモニー 交響楽団年末特別演奏 会 in さいたま	令和2年12月26日	東京フィルハーモニー交響楽団、 三ツ橋敬子	目標値	1,400
		大ホール		実績値	680※
3	子ども伝統芸能まつり	令和2年11月7日・8日	善竹大二郎 ほか	目標値	204
		小ホール		実績値	122※
4	SaCLa アーツ フライ デー ワンコイン コ ンサート	令和2年7月31日 10月23日 12月16日 令和3年2月26日※	7/31(動画配信) 吉野駿 (Vn) /京極朔子 (Vn) /加藤大輔 (Vla) /黒川実咲 (Vc) 10/23 島貫愛 (Pf) 12/16 成田七海 (Vc) /成田しのぶ (Hp.) 2/26 細川侑乃 (Gt.) /大坪純平 (Gt.)	目標値	2,090
		小ホール		実績値	311※
5	立川談慶・月亭方正 二人会	令和2年11月14日	立川談慶、月亭方正	目標値	272
		小ホール		実績値	101※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	世界劇場会議国際フォーラム 2021 in さいたま	中止※	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、日本全国や海外から参加者を招くことが困難であると判断したため、中止とした。	目標値 120	実績値 — ※
2	アートマネジメント研修 講座-地域に求められる事業企画とは-文化芸術制作者、文化芸術研究者、芸術家の視点から	令和2年 9月5日 10月17日 10月24日 10月31日※	研修テーマ 「公演事業の評価」 講師 柴田英紀	目標値 180	実績値 14※
		大集会室・第3集会室			
3	さいたま市ジュニアソロコンテスト	予選 令和3年2月6日・7日 本選 令和3年3月30日※	実行委員 小川佳津子 ほか 参加者 さいたま市内在住・在学の小学生、中学生	目標値 500	実績値 予選 167 本選 47※
		予選：プラザイースト 本選：多目的ホール			
4	SaCLa(サクラ)サポーターズコンシェルジュ研修～アクティブシニアの100年人生に向けて～	令和2年 10月29日 11月7日 12月2日※	研修講師 佐々木るい子 サントリーパブリシティサービス株式会社 参加者 SaCLa サポーターズ ほか	目標値 120	実績値 52※
		小ホール ほか			

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「発見！音楽の魅力」小学校アウトリーチコンサート	令和2年9月24日 ～11月26日※	9/24・25 ルミナスカルテット(弦楽四重奏) 10/7・8 塚越慎子(マリンバ) 10/21・22 小川真由子(フルート) 11/19・20 和楽器カルテット サイタマ ティック(三味線・尺八・箏) 11/26 Feelin' (打楽器・ピアノ)	目標値	8,000
		さいたま市立大宮東 小学校ほか全9校		実績値	2,573※
2	特別支援学校 ふれあい コンサート	令和3年1月26日※	トリコロレマリンバトリオ	目標値	300
		さいたま市立ひまわり 特別支援学校		実績値	117※
3	談慶&マクミランのエン ジョイ落語！ -字幕落語-	中止※	来場者として想定していた外国人の訪日が新型コロナウイルス感染症の影響により困難となったため、中止とした。	目標値	
				実績値	— ※
4	ダイバーシティプログラム「コーラスチャレンジ」	中止※	合唱による新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高く、事業実施が困難であると判断したため、中止とした。	目標値	30
				実績値	— ※
5	さいたまスーパーシニア バンド市民活動・官・学連 携プロジェクト	令和2年11月4日 ～12月27日※	講師・出演者 織田準一、植松透、橋爪恵一、渡瀬英彦、大西まみ、さいたまスーパーシニアバンド	目標値	入場者数 300×2公演、参加者数100
		小ホール		実績値	68※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

本年度は、「(さいたま市の) 市民みんなが楽しめる文化芸術の拠点施設を目指して」を社会的役割（ミッション）として掲げ、そのミッションの達成に向け、「みんなで創る」「みんなで高める」「みんなで関わる」をコンセプトに事業計画にあたった。

特に、公演事業では「みんなで創る」をコンセプトとし、次の戦略を掲げた。

① 「さいたま市だけにある」「オリジナル」な文化芸術事業を創造する。

② 鑑賞者が満足できる質を確保する。

このことについて、「東京フィルハーモニー交響楽団年末特別演奏会 in さいたま」では、当初は地域住民を対象として公募で集めた「市民合唱団」と東京フィルハーモニー交響楽団の共演を予定していた。ところが、合唱が新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高いとされることから、市民合唱団の参加を取りやめ、一流のオーケストラと指揮者による生演奏を提供する事業とした。そのため、「さいたま市だけにある」「オリジナル」な公演を行うことはできなかった。

しかしながら、令和元年度の実績から満足度の高い曲目を精査したことや、お客様同士の間隔を1席ずつ空けて配席するなど新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた結果、鑑賞者が満足できる質を確保することはできたと考える。演奏曲の選定にあたっては、「3大交響曲」の一つである「交響曲 第9番～新世界より～」（ドヴォルザーク）や、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」（モーツァルト）など、クラシックを代表する人気の高い楽曲を選んだ。来場者を対象に実施したアンケートでは、「また鑑賞したい」という回答が前年度比で7%増加となった。また、「すばらしかった。涙が出るほどうれしかった。」「このコロナ禍の中コンサートを開いてくださり感謝です。」という声が上がった。

これらのことから、やむを得ず実施の見送りや内容の変更を行った事業もあるものの、ミッションに基づき、おおむね予定どおりに事業を進めることができたと考える。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当センターが担うべき役割は、ミッションの達成を通して、市民が文化芸術に参画できる環境を提供し、また、市民の文化芸術に対する関心を高め、定着させることにあると考える。

本年度初の試みとして実施した「さいたまスーパーシニアバンド市民活動官・学連携プロジェクト」では、公募で集まった楽器経験のない60歳以上の市民を対象に、音楽ワークショップに参加していただき、市内の研究機関（大学）と連携して、その活動が認知機能や生活の質にどのような影響を与えるか調査研究を行った。この研究の結果、音楽活動に取り組むことによって高齢者のQOL（生活の質）と認知機能が有意に向上することが明らかとなった。このことから、当センターで実施している市民参加型事業が、文化芸術の推進のみならず市民のQOL向上にも通じていることが認められた。

当センターでは、この結果を報告書としてさいたま市に提出し、また、このプロジェクトの様子と調査結果をまとめた動画をYouTubeにて公開するなど、高齢者の音楽活動推進が継続的に行われるよう努めた。

以上のことから、当センターが実施する事業について、文化的、社会的、経済的意義が継続して認められると評価できる。今後も、当センターが継続して市民への文化芸術活動の振興とそれにかかわる人材の育成・支援を行えるよう、検討していきたい。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業の有効性について】

公演事業では、「みんなで創る」というコンセプトのもと、市民の方が当センターを訪れて文化芸術に気軽に触れられる機会を提供するため、平日の金曜日に 500 円で鑑賞できる「SaCLa アーツ フライデーワンコイン コンサート」を開催した。コンサートの出演者は、当センターが運営しているアーティスト人材バンク「SaCLa アーツ」の登録者から選定した。本公演は例年 2 か月に 1 回開催しているが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で公演内容の一部変更や公演延期が余儀なくされた。有観客で実施した 3 公演については社会情勢に配慮しつつ客席数を減らすなど感染症対策を徹底することで、チケットを完売することができた。また、本公演では初となるコンサート映像の動画配信も開始し、コロナ禍で外出を控えている方や遠方にお住いの方にも文化芸術を届けられるように努めた。



コンサート映像収録時の様子

【人材養成事業の有効性について】

人材養成事業では、「みんなで高める」というコンセプトのもとに事業を行った。さいたま市と協働し開催した「さいたま市ジュニアソロコンテスト」は、新型コロナウイルスの影響により、予選・本選を通してすべて音源審査とすることで、コロナ禍でも音楽活動に励む子ども達に対して発表の場を提供することができた。参加者からのアンケートでは「音源審査という形でも開催してくれて良かった」という声がある一方で、「コロナ禍でなければ以前の発表会形式での開催が望ましい」という声も挙がった。今後は新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、参加して下さる方々にとって最も適した開催形式を模索していきたい。



音源審査時の様子

【普及啓発事業の有効性について】

普及啓発事業では、「みんなで関わる」というコンセプトのもと、訪日外国人旅行者を対象とした事業や、市内で活動する芸術家と協働して市民同士のコミュニケーションを創出するアウトリーチコンサートなどを計画していた。前者は、新型コロナウイルス感染症の影響により外国人の訪日が困難となったため実施にはいたらなかった。しかしながら、後者においてはコロナ禍の中で開催時期や事業内容を変更することで複数の事業を実施することができた。「小学校アウトリーチコンサート」は、児童数の多い小学校では三密を避けるために鑑賞児童を特定の学年に絞ってコンサートを実施した。この開催校にはコンサートの模様をおさめた DVD を贈答し、当日鑑賞できなかった児童には後日その映像を鑑賞していただいた。市内で活躍するアーティストを演奏者に起用することで、児童たちと関わり合うコンサートを実施することができた。



小学校アウトリーチコンサートの様子

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間について】

当初、各事業は令和2年4月～令和3年3月にかけて分散して事業計画を立てていた。しかしながら、令和2年4月～5月、および令和3年1月～3月にかけては、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出され、さいたま市文化センターやアウトリーチ（訪問）先の施設が休館となったため、当該期間に実施を予定していた事業は予定通り実施することはできなかった。一方で、感染状況を注視して実施日程の再調整を行い、また、オンライン配信など実施方法を変更することで、各事業おおむね予定通りの回数を実施した。「SaGLa サポーターズコンシェルジュ研修～アクティブシニアの100年人生に向けて～」では、感染状況が落ち着いていたタイミングに合わせ、研修を実施することができた。また、「小学校アウトリーチコンサート」では、訪問先の小学校に感染対策や児童の活動状況などについてヒアリングを行い、感染拡大防止と事業実施の両立を図った。

【事業費について】

決算時における要望時比の執行額については、14事業のうち9事業が20%以上減少した。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部内容を変更したことによるものである。一例としては、「東京フィルハーモニー交響楽団年末特別演奏会 in さいたま」において、クラスター発生のリスクが高いとされる合唱を取りやめたことから、市民合唱団の練習に係る講師料等の支出が縮減された。なお、執行額が要望時の金額を超過した事業はなかった。

【入場者（参加者）数について】

入場者数は、全体を通して目標値の半分程度と目標を大きく下回ったが、これは、ソーシャルディスタンス確保の都合により、客席数を実際の収容人数の1/2～1/3程度に設定したためである。多くの人を集めることが難しいなか、「さいたま市ジュニアソロコンテスト」においては対面審査を取りやめ、音源審査へ変更することで、多くの生徒に安心して参加していただけるよう工夫した。また、公演事業ではSNS（Twitter、LINEなど）や郵便局でのポスター掲示など、さまざまな媒体を通じて積極的な広報活動を行い、入場者数向上を図った。「SaGLa アーツフライデーワンコインコンサート」では、会場で実施した3回の公演はすべてが完売となり、アンケートでは「久々にコンサートに来て生音の良さを再認識した。」「楽しい時間を過ごせて気分転換になった。」など、好評を得た。



ソーシャルディスタンス確保の様子

以上のことから、やむを得ず当初の計画通りに進まなかった部分があるものの、日程や実施方法などの調整を行った結果、おおむね適切な事業期間と事業費で事業を実施できたと考える。今後は、収容人数を削減せざるを得ない状況においても市民に対して文化芸術への参加や鑑賞の機会を提供し、かつ収益の安定化を図るため、感染症対策を踏まえた公演内容やチケット料金の見直し、1事業あたりの実施回数を増やすなど必要な検討を行っていききたい。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【アーティストバンク SaCLa アーツの活用】

当センターでは、さいたま市で活動するアーティストの人材バンクとして、「SaCLa アーツ」事業を行っており、令和2年度末時点で297団体が在籍している。今年度は、この登録団体を起用し3事業14回（助成対象外事業を除く）の公演を実施した。中でも「特別支援学校ふれあいコンサート」では、プロの音楽家が学校に訪問することで、普段劇場・音楽堂等に来ることが難しい児童・生徒にも、「生の音楽」を届けることができた。実施にあたっては学校側にヒアリングを行い、学年ごとに楽曲を変更したり、楽器を使って参加できるようにするなど、要望を踏まえた公演内容とした。教職員へのアンケートでは、「普段表出の少ない子どもとても喜んでいた」「普段あまり動かさない手や首がよく動いていたので、とても楽しんで聴いていたように思う」という声が多く挙がった。また、「教員としても普段見られない生徒の一面が見られて嬉しい」との声もあった。このことから、市民の鑑賞機会の提供のみならず、障がいを持つ児童・生徒の心の充実など精神的な効果を生み出し、自主性を引き出すきっかけを創出できたと考える。また同時に、市内で活動するアーティストに対しても、活躍の場を提供することができた。今後は、このようなSaCLaアーツを活用した事業を、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、開催施設の近隣住民などにも鑑賞していただくなど、より多くの市民に発信していきたい。



SaCLaアーツを活用した公演の様子

【文化芸術ボランティア SaCLa サポーターズの活用】

当センターでは、文化芸術ボランティア「SaCLa サポーターズ」事業を行っている。これは、文化芸術に関心のある市民などに対し、自主文化事業等のボランティアスタッフとして参加いただくことで、文化芸術振興を推進する人材の育成を図るものである。令和2年度時点で98名が在籍しているが、登録者のホールサービス対応能力の向上や参加者同士のコミュニケーションの増進を目的として、「SaCLa サポーターズコンシェルジュ研修」を実施した。その中でも、サントリーパブリシティサービス(株)の講師を招いて行った「コロナ禍におけるホールサービス研修」では、昨今の社会情勢をふま



SaCLa サポーターズ研修の様子

え、お客様同士の間隔を保つためのお声かけの方法など、コロナ禍におけるポイントに重点を置いたホールサービスの仕方について学ぶ機会を設けた。これについて参加者からは、「改めてお客様への対応についての確認ができ、コロナ対策についての知識がもて、安心することができました。」などの声が続出した。このことから、接客対応や顧客理解等の研修機会を充実させ、登録者の能力を向上させることができたと考えられる。今後は、さまざまな分野の研修の機会を充実させるとともに、施設への来館が難しい状況下でもこれらの研修に安心してご参加いただけるよう、オンラインでの研修・交流会の実施などを視野に入れて検討していき、より多くの登録者に対して受講を促していきたい。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【日本の伝統文化を地域に発信する】

当センターでは、「地域文化や伝統文化の次世代への継承」を目標として掲げているため、それを達成するために能舞台を活用した事業を開催した。当センターは小ホールに能舞台を設置することができる劇場だが、その設営には時間や費用がかかるため、かつては利用される頻度が低く、一般の方の目に触れる機会が少なかった。能舞台は伝統文化の歴史や趣について学ぶことのできる貴重な財産であり、その文化を後世に受け継いでいくことが我々の使命である。そのため子どもでも伝統文化に気軽に触れて学べる「子ども伝統芸能まつり」を2日間開催し、1日目は能舞台の展示、2日目は狂言のワークショップと親子鑑賞会を実施した。



ワークショップ時の様子

能舞台展示は市民の方に参加していただきやすいよう入場自由・参加無料で実施した。来場された方は実際に能舞台の上に立ち、舞台の広さや構造を興味深そうに鑑賞していた。また当センターの職員が分かりやすく解説をすることで、深く理解していただけるように努めた。前頁で述べた「SaGLa サポートーズ」にも研修の一環としてご参加いただき、文化芸術に携わるスタッフとしての専門性向上を図った。

ワークショップでは、伝統文化を初めて鑑賞されるお客様が能や狂言をより身近に感じていただけるよう、お客様も能舞台に上がり、講師にお迎えした善竹大二郎氏から狂言ならではの発声方法や所作について学んだ。このワークショップを事前に行ったことにより、その後の親子鑑賞会では子どもたちから歓声や笑い声があがるなど、しっかりと演目の内容が伝わっている様子が見て取れた。小学校低学年以下のお子様を連れてお客様に多くご来場いただいたため、若年層の鑑賞者の育成にもつながる事業であったと認められる。

【地域の子どもたちに文化芸術を届ける】

普段コンサートホールに来場することが難しい子どもたちにアーティストの生の演奏を届けることを目的とした「小学校アウトリーチコンサート」を開催し、文化芸術教育の推進に努めた。本事業は児童が文化芸術に触れて、豊かな感受性や人間性を育むための「未来への投資」であるという思いが込められている。かねてより開催してきた本事業だが、今年度はコロナ禍において多くの小学校で学校行事などが中止となっていたため、児童や教職員の方々に少しでも楽しいひとときを過ごしてもらえようとするコンサートの開催を目指した。



コンサート開催時の様子

コンサートには弦楽器や打楽器、和楽器など多種多様な楽器の演奏者に出演していただいた。演奏の披露だけでなく、楽器の構造や音楽の歴史についても解説していただくことで、児童たちが多角的に音楽について学べる時間になるように工夫をした。公演後に行ったアンケートによると、鑑賞した児童の約半数が「日頃クラシック音楽を聴いていない」と答えていたものの、全体の90%以上の児童が「コンサートは楽しかった」と回答している。また「楽器に挑戦してみようと思った」と回答する児童も多く、児童たちにとって本事業が音楽に親しみをもち、自分も取り組んでみたいと思ったきっかけになっていたと評価できる。コンサートを鑑賞した児童たちが地域で活躍するアーティストや文化芸術活動に積極的に関わろうとする人材へと育つように今後も本事業を継続して開催していきたい。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【人材の育成について】

文化芸術基本法第16条において「芸術家等の養成及び確保」が一部追記され、「文化芸術活動に関する企画又は制作を行う者」等に対して、「教育訓練等の人材育成への支援」などの必要な施策を講じる必要性が明記された。そこで文化芸術に関わる人材や興味のある地域住民を対象に「アートマネジメント研修講座」を開催した。研修テーマは「公演事業の評価」であり、これは事業評価を通して目的に沿った計画(Plan)、実行(Do)、検証(Check)、改善(Action)、のPDCAサイクルを理解していただくことを目的としている。



研修時の様子

研修は参加者がそれぞれ執筆した事業評価文を基に議論を交わす形式で行われた。当センターの職員に加え、全国の公立文化施設等で勤務する方や他業種の分野で働いている方が参加することで、多方面とのネットワーク形成を図ることもできたと評価できる。「さいたま市文化芸術都市創造計画」では、さいたま市版のアーツカウンシル導入が目標として記載されているため、本事業を今後も継続して開催することでさいたま市の文化政策に貢献する人材の育成を図っていきたい。

【経営戦略について】

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業が中止または観客数を減らしての開催となったため、チケット収入などは大幅に減収となった。そのため事業実施に関わる支出費用を減らすため、令和2年度からは従来のチラシ配布や情報誌の発行に加え、TwitterやFacebook、LINE等のSNSを用いた広報活動を精力的に展開した。SNSはチケットの販促を目的に投稿した記事の閲覧数が5万件を超えることもあり、低いコストで高い広報効果を生むため広告費の削減につなげることができたと考える。当センターの課題である「若年層のお客様の獲得」にも効果的な手段であると考えられるため、今後も継続して取り組んでいきたい。

またかねてより「SaCLa友の会」という会員制度を運営し、チケットの先行販売や会員限定コンサートなどの特典サービスを行っている。この制度の主な運営費は会員からの入会費や年会費となるため、今後も充実したサービスを提供することで会員数を増やし、安定した固定収入の獲得を目指したい。

【事業のPDCAサイクルについて】

当事業団では「文化芸術基本法」や「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」、「さいたま市文化芸術都市創造計画」などに沿って、人々の心と地域社会を豊かにする事業の企画に取り組んでいる。

事業実施にあたっては前回から公演内容を向上・改善させるだけでなく、職員一人ひとりが高いホスピタリティを発揮することを心掛けた。令和2年度はコロナ禍での事業実施となったため、手指のアルコール消毒や検温、マスクの着用など感染症対策を徹底することでお客様に安心して公演を鑑賞していただけるように努めた。

事業終了後にはお客様からのアンケートや職員間で行うミーティングで得た気づきや反省点を基に事業評価を行う。当センターが従来行ってきた紙媒体によるアンケートは回答率が低く、お客様の意見や評価を詳細に汲み取るという点に課題があった。今後はWeb上での回答方式などを検討することに加え、従来の質問項目や評価基準を見直すことでより正確にお客様の声が反映されたデータを収集し、今後の事業企画に活かしていきたい。